

令和 8 年度 第 3 回 下関市環境審議会 議事概要

1 開催概要

日 時	令和 8 年 9 月 1 日（火） 14：00～16：00
場 所	下関市リサイクルプラザ啓発棟 3 階 第 2 研修室
出席者	委員 12 名（会場 7 名、Web 参加 5 名）、事務局（環境政策課）
主な議題	下関市環境基本計画の素案について

2 審議経緯

市長の挨拶のほか、以下の議事が進められた。

- ・ 任期満了に伴う委員改選により、18 名の委員が委嘱され、このうち 3 名が新たに委員に就任した。
- ・ 会長及び副会長の互選が行われ、会長に水産大学校代表の三木委員、副会長に下関市 PTA 連合会事務局長の倉本委員が選出された。
- ・ 事務局から、下関市環境基本計画の素案について説明を行い、主要な施策、KGI・KPI、計画の推進体制及び進行管理、計画本体とアクションプラン（仮称）の役割分担等について審議を行った。

3 環境基本計画素案（事務局説明要旨）

◆（1）計画素案の概要

- ・ これまでに審議した基本目標・施策体系等を踏まえ、主要な施策、KGI・KPI、推進体制等を具体化した計画素案を作成した。
- ・ 計画期間は令和 9 年度から令和 18 年度までの 10 年間とし、自然環境、生活環境、地球環境、循環型社会の 4 分野と、これらを横断的に支える環境基盤施策で構成する。
- ・ 市民の実感や環境配慮行動の変化を重視し、施策と成果の関係が分かりやすく、実効性のある計画を目指す。

◆（2）計画の目指す姿・指標体系

- ・ 計画全体の目指す姿を「誰もが安心して未来を描き、持続可能な地域社会を次世代へ引き継ぐ」とし、基本的な考え方から基本目標、施策の方向性へつながる構成とする。
- ・ KGI（成果指標）、KPI（進捗・行動指標）、活動指標の三層で進行管理を行う。

- ・ KGI・KPI は計画本体に、具体的な事業の実施状況を測る活動指標はアクションプランに位置付ける。
- ・ 環境の状態を一つの指標のみで評価することが難しい分野については、関連する客観的データ等も踏まえ、総合的に評価する。

◆ (3) 分野別の KGI・KPI 及び主要な施策

自然環境

- ・ KGI を「自然環境にふれる機会に満足している市民の割合」とし、保全活動への参加や自然体験活動への参加等を KPI として設定する。
- ・ 生物多様性の保全、自然とのふれあい・活用、森林・里地里山・里海等の維持管理に関する主要な施策を整理する。

生活環境

- ・ KGI を「生活環境が良好だと感じる市民の割合」とし、環境基準の達成状況、市民の生活環境に対する実感、環境美化活動の状況等を KPI として設定する。
- ・ 公害のない生活環境の確保、健康で快適な生活環境づくり、環境美化に関する主要な施策を整理する。

地球環境・循環型社会

- ・ 地球環境は「温室効果ガス排出量」、循環型社会は「市民 1 人 1 日当たりごみ排出量」を KGI とし、総合計画及び各個別計画との整合を図る。
- ・ 具体的な事業や詳細な進行管理については、地球温暖化対策実行計画及び一般廃棄物処理基本計画を主体として行い、環境基本計画では分野全体の方向性と成果を示す。

環境基盤施策

- ・ KGI を「環境に配慮した行動を実践している市民の割合」とし、環境教育・環境学習への参加、環境活動への参加、事業者の環境配慮行動等を KPI として設定する。
- ・ 環境教育・環境学習、多様な主体との連携・協働、環境配慮行動を支える基盤づくりを通じ、4 分野を横断的に支える。

◆ (4) 計画本体とアクションプランの役割分担

- ・ 計画本体には、目指す姿、基本目標、施策の方向性及び主要な施策を位置付ける。
- ・ 具体的な事業、実施内容、担当課及び活動指標はアクションプランで管理し、毎年度ローリングすることで社会情勢や新たな環境課題に柔軟に対応する。

◆ (5) 推進体制・進行管理

- ・ 庁内の地球環境経営会議を推進組織として位置付け、関係部局間の連携及び進捗管理を行う。
- ・ KPI やアクションプランの活動指標等を基本に毎年度進捗を把握・評価し、その結果を環境審議会へ報告する。

- ・ 審議会からの意見を施策・事業の改善につなげるとともに、進捗状況を公表し、必要に応じて計画を見直す。

4 委員からの主な意見

◆ KGI・KPI の設定及び評価

- ・ 自然環境・生活環境の KGI について、「回答数」ではなく「割合」であることを正確に記載するとともに、アンケートの回答区分や目標値の設定方法が分かるよう説明を充実すべき。
- ・ 市民の満足度など主観的な指標だけでなく、自然環境の状態や施策の実態を示す客観的な指標・データも併せて把握する必要がある。
- ・ KGI を簡素化する場合でも、KPI は主要な施策との対応関係が分かるよう設定することを検討すべき。

◆ 自然環境・生活環境のモニタリング

- ・ 30by30 や保全地域の状況など、自然環境そのものの状態を示す客観的なデータについても把握・評価することが望ましい。
- ・ 計画の指標を増やし過ぎずに簡素化する一方、計画の進行管理とは別に、環境そのものの状態を継続的にモニタリングする仕組みを検討してはどうか。

◆ 生活環境分野

- ・ 「環境監視体制の充実」は、単純な拡充を想起させるため、実際の取組内容を踏まえ「適正な監視」など、評価可能で分かりやすい表現を検討すべき。
- ・ 環境基準達成率について、施策による改善が困難な項目もあることから、KPI としての妥当性や、基準超過項目数など別の表現も検討すべき。

◆ 地球環境・循環型社会と個別計画との関係

- ・ 地球環境・循環型社会について、他分野と構成が異なる理由や個別計画との役割分担が、計画を初めて読む人にも分かるよう明記すべき。
- ・ 地球環境の KGI である温室効果ガス排出量では「気候変動への適応」の成果を直接把握できないため、適応策の評価方法について検討が必要である。

◆ 目標設定・計画の分かりやすさ

- ・ 市民が本市の現状を理解できるよう、ごみ排出量などについて全国等との比較や、本市が置かれている状況を分かりやすく示してはどうか。
- ・ KGI の目標年度が計画期間と一致しない分野について、その理由や個別計画等との関係を分かりやすく示す必要がある。
- ・ 各目標値について、なぜその水準を目指すのかという設定根拠や考え方を明確にすべき。

◆ 計画体系・庁内施策との関係

- ・ 現状と課題を幅広く整理している一方、基本目標、KGI・KPI、主要な施策へと簡素化する過程で、それぞれのつながりが見えにくくなっている。
- ・ 環境基本計画は市民向けであると同時に庁内各部局の環境施策の指針でもあるため、アクションプラン等を活用し、関係部局の取組を適切に位置付ける必要がある。

◆ その他

- ・ 環境基盤施策の成果について、市民だけでなく、事業者、学校、地域団体等の取組も把握できる指標を検討してはどうか。
- ・ サーキュラーエコノミーについて、本市の特徴や具体的な方向性が分かるよう工夫してはどうか。
- ・ 自然環境の保全と、観光や地域活性化など自然資源の活用との両立を意識した取組が重要である。
- ・ KGI・KPI という用語は目標達成との強い因果関係を想起させるため、「モニタリング指標」など、より柔軟な表現も検討してはどうか。
- ・ 計画を簡素化した考え方や、指標で直接把握しない事項の取扱いについて、将来の進行管理や引継ぎのためにも整理しておくことが望ましい。

5 今後のスケジュール

回	予定時期	主な内容
第3回（本回）	令和8年9月1日	計画素案（施策・指標体系等）の審議
第4回	令和8年10月末	計画原案・アクションプラン（仮称）の審議
パブリックコメント	令和8年11月中	計画原案に対する意見募集
第5回	令和9年1月末	パブリックコメント反映案の確認・答申案の審議
答申	令和9年2月	市長答申